



酒井はやみ 議員  
(日本共産党  
幕別町議員団)

**問**

長引くコロナ禍のもと「後遺症や学級閉鎖で子どもたちの生活が不安定に」「マスク生活や人とのかわりが減り、心への影響が心配」「未就学児なのに視力が悪いと言われ不安」「病院は予約でいっぱいがかかりづらくなつた」など、子どもたちの心身への影響が懸念される。町の子どもたちの変化や実態をつかんで、すべての子どもたちに健康で安心できる生活を保障するために、以下について伺う。

- (1)未就学児、小学生、中学生の感染者数の累計は。
- (2)ワクチン接種状況は。
- (3)後遺症についての相談、支援内容は。
- (4)不登校増加への対策は。

**教育長**

(1)令和3年5月から4年11月末までの累計は、未就学児は179人、小学生795人、中学生307人となっている。

**問**

コロナ禍での子どもたちが健康で安心できる生活の保障を

**答** 児童生徒に寄り添ったケアに努める

(2)11月末現在、12歳以上15歳以下の対象者927人に対し、1回目接種済み541人、2回目接種済み539人、3回目接種済み345人で、5歳以上11歳以下の対象者1570人に対し、1回目接種済み406人、2回目接種済み383人、3回目接種済み70人となっている。また、6カ月以上4歳以下の接種は、11月9日に案内を送付し、11月15日に1回目の接種を開始している。

(3)町立保育所や小中学校等において、倦怠感の症状や頭痛の症状が続いている児童を確認しており、保護者から学校生活における相談を受け、症状が出た場合は保健室の様子を見るなどの対応を行った。

(4)不登校の要因は、本人だけではなく、学校、家庭、社会状況が複雑に絡んでいるものと分析しており、一人ひとりに寄り添った対応を進め、学びの保障に努める。



**問** 18歳まで医療費無料に

**答** 有効な子育て支援策を選択していきたい

**問**

中学卒業まで医療費を助成している自治体は全国で95%、高校卒業までは47%と広がっている。学習面や進路、準備にお金がかかる高校生も含め、すべての子どもたちがお金の心配なく医療を受けられるよう、18歳年度末までの医療費無料化に向けて、以下について伺う。

- (1)18歳まで無料にする際、対象人数と予算は。
- (2)無料化拡充への考えは。

**町長**

(1)対象人数は、令和3年度末現在、16歳から18歳までの人数723人からひとり親家庭や重度心身障害者の医療助成対象者と生活保護需給者を除いた600人となる。

必要な予算は、1人当たりの自己負担額の3年間平均3万3千円であることから、約2000万円の新たな費用負担に加え、無料化に伴い医療機関を受診する患者数が増える分として500万円が見込まれる。

(2)子どもの医療費助成は、少子化対策や若年世代の定住対策の寄与できる施策として認識しているが、医療費の無料化は、不要不急の受療行動の助長や今後の医療技術の発展等により医療費の増加も予想される。助成対象の拡充は慎重に検討しなければならない。

子ども医療費を含む子育て支援策のバランスの中で制度の方向性を見極め、有効な子育て支援策を選択していきたい。

**再質問**

十勝管内で、18歳までの医療費助成を決めている自治体は。

**答**

令和4年4月現在11町村が実施しており、令和5年度から3町村が、拡充する予定である。